

病院歯科・口腔外科 医療用語集

- 第1章 医局・医療スタッフ
- 第2章 診療科名
- 第3章 病院・医療
- 第4章 病歴関連用語
- 第5章 治療方針
- 第6章 解剖学用語
- 第7章 病理組織学的診断
- 第8章 腫瘍に関する用語
- 第9章 再建術
- 第10章 画像診断
- 第11章 現症
- 第12章 既往歴・疾患名
- 第13章 感染症
- 第14章 歯科・口腔外科の病名
- 第15章 薬物療法
- 第16章 薬剤
- 第17章 輸血・骨髄移植
- 第18章 注射法
- 第19章 化学療法
- 第20章 免疫療法・分化誘導療法
- 第21章 処置・治療
- 第22章 器材
- 第23章 バイタルサイン
- 第24章 尿検査
- 第25章 クレアチニンクリアランス
- 第26章 血液ガス分析
- 第27章 臨床検査
- 第28章 腫瘍マーカー
- 第29章 放射線療法
- 第30章 食事療法
- 第31章 看護用語

デンタルオフィスみなと 1st edition 1998.6.19

英：英語 独：ドイツ語 ラ：ラテン語 仏：フランス語 同：同義語 略：略語 例：使用例
形：形容詞 関：関連事項 反：反対語 和：日本語 和製英：和製英語 商：商品名
注：注意事項

第6章. 解剖学用語

頭	head[英] Kopf[独] (関)head and neck[英]頭頸部
咽頭	throat[英] Rachen[独]
オトガイ孔	mental foramen[英]
オトガイ神経	mental nerve[英]
オトガイ唇溝	mentolabial sulcus[英]
オトガイ部	mental region[英]
オトガイ下部	submental region[英]
外眼角	external canthus, lateral angle of eye, lateral canthus[英]
外側翼突筋	lateral pterygoid muscle[英]
下眼瞼	lower eyelid, palpebral inferior[英]
顔	face[英] Gesicht[独]
顎関節	temporomandibular joint (TMJ)[英]
顎動脈	maxillary artery[英]
下顎角	angle of mandible (jaw), gonial (mandibular) angle[英]
下顎管	mandibular canal[英]
下顎孔	mandibular foramen[英]
下顎骨	jaw bone, mandible[英]
下顎神経	mandibular nerve[英]
下顎頭	head of mandible[英]
下歯槽神経	inferior alveolar nerve[英]
下歯槽動脈	inferior alveolar artery[英]
下唇 (かしん)	labium inferius oris[ラ] lower lip[英]
	(注)上口唇、下口唇は誤った表現。
下唇小帯	inferior labial frenulum, lower labial fremen[英]
顎下隙	submandibular space[英]
顎下腺	submandibular gland[英]
顎下部	submandibular region[英]
顎舌骨筋	mylohyoid muscle[英]
顎堤	alveolar ridge[英]
顎二腹筋	digastric muscle[英]
滑膜	synovialis[英] synovial(シノビアル)[形]
眼窩	orbit[英]
眼窩下孔	infraorbital foramen[英]
眼窩下神経	infraorbital nerve[英]
眼窩下部	infraorbital region[英]
眼窩上孔	supraorbital foramen[英]
眼窩底	floor of orbit[英]
眼窩部	orbital region[英]
眼球結膜	bulbar conjunctiva, conjunctival layer of bulb[英]
眼瞼結膜	palpebral conjunctiva[英]
冠状血管	coronary circulation[英]心臓に血液を供給する血管が、冠状動脈(coronary artery)・静脈(coronary vein)という名前なので、心臓の循環を冠状循環という。冠状循環の血液量は1分当たり250mlほどで、心拍出量の4%に過ぎないが、酸素の消費量では全身の11%を占める。しかも、激しい運動の際には、心筋の酸素消費量は、安静時の9倍にも増える。
関節円板	articular disk[英]
関節腔	articular cavity[英]
関節結節	articular tubercle[英]
眼底	eyeground[英]
顔面神経	facial nerve[英]
下顎縁枝	marginal mandibular branch[英]
頬筋枝	buccal branch[英]
頬骨枝	zygomatic branch[英]
頸枝	cervical branch[英]
側頭枝	temporal branch[英]

気管	trachea[英]
気管支	[primary] bronchus[英]
気道	air tube, airway, respiratory tract[英]
臼後三角	retromolar triangle[英]
臼後隆起	retromolar pad[英]
頬骨	zygomatic bone, cheek bone[英]
頬骨弓	zygomatic arch[英]
頬骨部	zygomatic region[英]
胸鎖乳突筋	sternocleidomastoid muscle[英]
頬脂肪	buccal fat, fat body of cheek[英]
頬小帯	buccal frenulum[英]
頬粘膜	buccal mucosa[英]
頬部	buccal region[英]
筋突起	coronoid process[英]
茎状突起	styloid process[英]
口	Mund[独] mouth[英]
口蓋	palate[英]
硬口蓋	hard palate[英]
軟口蓋	soft palate[英]
口蓋垂	pendulous palate, uvula(ウブラ)[英]
口蓋帆	palatine velum[英]
口蓋扁桃	palatine tonsil[英]
口角	angle of mouth[英]
口峽	fauces[英]
口腔	oral cavity[英]
口腔底(口底)	floor of mouth, floor of oral cavity[英]
口腔粘膜	oral mucosa[英]
咬筋	masseter muscle[英]
甲状腺	thyroid gland[英]
甲状軟骨	thyroid cartilage[英]
口唇腺	labial gland[英]
喉頭	larynx[英]
喉頭蓋	epiglottis(エピグロティス)[英]
口部	oral region[英]
鎖骨部	clavicular region[英]
三叉神経	trigeminal nerve[英]
耳介	auricle[英]
耳下腺	parotid gland[英]
耳下腺咬筋部	parotid masseteric region[英]
耳下腺乳頭	parotid papilla[英]
視神経	optic nerve[英]
齒槽骨	alveolar bone[英]
齒肉	gingiva, gum(ガム)[英]
齒肉頬移行部	mucobuccal fold[英]
上顎結節	maxillary tuberosity[英]
上顎骨	maxilla[英]
上顎洞	maxillary sinus[英]
上顎神経	maxillary nerve[英]
上眼瞼	palpebra superior[英]
上唇(じょうしん)	labium superius oris[ラ] upper lip[英]
上唇小帯	superior labial frenulum, upper labial frenum[英]
食道	esophagus[英]
ステンセン管	Stensen's duct[英]
切齒乳頭	incisive papilla[英]
舌咽神経	glossopharyngeal nerve[英]
舌下小丘	sublingual caruncle[英]
舌下神経	hypoglossal nerve[英]
舌下腺	sublingual gland[英]
舌下ヒダ	sublingual fold[英]

舌神経	lingual nerve[英]
舌骨	hyoid bone[英]
舌骨下筋	infrahyoid muscle[英]
舌骨上筋	suprahyoid muscle[英]
舌根	root of tongue[英]
舌小帯	frenulum of tongue[英]
舌尖	apex of tongue[英]
舌側縁	edge of the tongue[英] 舌側縁は舌癌の好発部位である。
舌体	body of tongue[英]
舌動脈	lingual artery[英]
舌扁桃	lingual tonsil[英] 舌扁桃を舌癌だと思って来院する患者さんが以外に多い。
舌粘膜	lingual mucosa[英]
舌乳頭	lingual papilla[英]
舌の下面	inferior surface of tongue[英]
舌の分界溝	terminal sulcus of tongue[英]
舌背	dorsum of tongue[英]
前頭部	frontal region[英]
前腕	forearm[英]
側頭筋	temporal muscle[英]
側頭部	temporal region[英]
大口蓋動脈	greater palatine artery[英]
智歯(ちし)	wisdom tooth, third molar[英] 第三大臼歯、親知らず
腸骨	iliac bone[英]
内眼角	internal canthus, medial angle of eye, medial canthus[英]
内側翼突筋	medial pterygoid muscle[英]
乳突部	mastoid region[英]
人中	philtrum[英]
脳幹	brain stem[英]
脳神経	cranial nerves[英]
腹	abdomen, belly[英] Bauch[独]
反回神経	recurrent nerve[英]
鼻唇溝	nasolabial sulcus[英]
鼻部	nasal part, nasal region[英]
鼻翼	wing of nose[英]
ヒルン	Hirn[独] 脳 brain[英]
副神経	accessory nerve[英]
腹直筋	rectus muscle of abdomen[英]
腹膜	abdominal membrane[英]
ヘルツ	Herz[独] 心臓 heart[英]
マーゲン	Magen[独] 胃 stomach[英]
眉	eyebrow[英]
マンマ	Mamma[独] 乳房
胸部	breast[英] Brust[独]
迷走神経	vagus nerve[英]
ライブ	Leib[独] 体、肉体、腹、胴体、下腹部 body[英]
ルンゲ	Lunge[独] 肺 Lung[英]
ルンプ	Rumpf[独] 胴、胴体(頭・手足を除いた部分)、体幹 trunk[英]
レーベル	Leber[独] 肝臓 liver[英]
レンデ	Lende[独] 腰
ワルトン管	Wharton's duct[英]
A(エー)	artery[英] 動脈
CNS	central nervous system[英] 中枢神経系
LN	lymph node[英] リンパ節
PNS	peripheral nervous system[英] 末梢神経系
SMLN	submandibular lymph node[英] 顎下リンパ節
V(ブイ)	vein[英] 静脈

第7章. 病理組織学的診断

(1) 概論

インベーション
切り出し

invasion[英]細胞または病原菌の侵入
cutting[英]手術切除(摘出)組織より検査材料を採取することを“切り出し”と呼ぶ。

ゲフリール

Gefrierschnitt[独]凍結切片 Gefrierpräparat[独]凍結切片標本 (略)ゲフ (関)gefrieren[独]凍結する

術中迅速診断は凍結切片標本(frozen section technique)によってなされる。採取された組織は生のまま速やかに病理検査室へ提出され、“凍結切片作成→HE染色→鏡検→組織診の報告”の全過程が20-30分以内に行われる。

◇ 生の組織を手術室から病理検査室へ送る際には、乾燥を避け生理食塩水を浸したガーゼで軽く包むかシャーレやビニール袋に入れる。

固定

fixation[英]固定は組織や細胞の自家融解による腐敗をおさえて、生きていた状態になるべく近い状態の組織や細胞の種々の構造をとらえるために行う処理である。固定液の量は豊富に使い、通常、組織片の5-10倍の量を用いる。固定液は目的の染色法に適した固定液を選択する。一般的な固定液として中性緩衝ホルマリンが多く用いられる。迅速診断(ゲフリールの項参照)では固定液を用いないので注意する。

細胞診
剥離細胞診
穿刺吸引細胞診

cytological examination[英] (関)Papanicolaou分類
exfoliative cytology[英]

aspiration biopsy cytology(ABC), fine needle aspiration biopsy(FNAB)[英]21-23G(外径0.6-0.8mm程度)の細い針に10-20mlの注射筒を接続し、病巣を穿刺して吸引することにより細胞を採取するもの²⁰⁾。

サージカル マージン

surgical margin[英]外科的縁
surgical margin free of tumor[英]腫瘍のない外科的余地(外科的余裕)

◇ 外科治療後の病理組織学的所見で切除断端に癌が認められた症例(positive surgical margin)の予後は、認められなかったmargin freeの症例より局所制御率が低く、予後不良である⁴¹⁾。

浸潤
ゼク

infiltration[英]
Sektion[独]病理解剖 autopsy[英]剖検
(関)Leiche(ライヘ)[独]屍体

切開生検

incisional biopsy[英]くさび状に腫瘍組織の一部を採取するもの²⁰⁾。(同)open biopsy[英]開放性生検

切除生検

excisional biopsy[英]腫瘍全部を摘除する生検²⁰⁾。
(同)摘出生検 (関)excision[英]切除

バイオプシー

biopsy[英]生組織検査、生検
ギリシャ語のbio(生命)+opsis(外見、様子)よりつくられた語で、“生きている組織の様子を見る”意である³¹⁾。

パソ

pathology(パソロジー)[英]①病理学②病理所見
医学用語として-pathyが付く言葉は、いずれも“病”を表す。

針生検

pathogen[英]病原、病原体 pathogenesis[英]病因論
drill needle biopsy[英]組織内に針を刺入し組織の一部あるいは細胞を採取して組織診あるいは細胞診を行うことを針生検、吸引生検、吸引細胞診などという。狭義の針生検はSilverman針やMenghini針などの太い針(外径1.6-2.6mm)を用いて、円柱状の組織小片を採取し、組織診を行うものである²⁰⁾。

病理(学的)所見
包埋(ほうまい)

pathological findings[英]
embedding, imbedding[英]包埋剤を用いて組織片を薄切しやすい状態にする操作を包埋という。包埋剤には、非親水性・非水溶性のパラフィン、セロイジン、メタクリル樹脂、エポキシ樹脂、親水性・水溶性のカーボワックス、ゼラチンなどがある。パラフィン包埋法(embedding in paraffin)が最も一般的で常用されている。

マクロ	macro[英]肉眼的所見 摘出した臓器についての病理医による肉眼的所見を指す。
ミクロ	micro[英]顕微鏡所見
プレパラート	Pra"parat[独]標本
剖検所見	autopsy finding[英]
ライヘ	Leiche[独]屍体
H P F	high power field[英]顕微鏡の用語で、強拡大の一視野。
(2)Y-K grade	浸潤様式の細分類 (山本、小浜：1982, Jakobsson 分類：1973 を改訂)
1 型	境界線が明瞭である
2 型	境界線にやや乱れがある
3 型	境界線は不明瞭で大小の腫瘍胞巣が散在
4 型 C	境界線は不明瞭で小さな腫瘍胞巣が索状に浸潤 (索状型)
4 型 D	境界線は不明瞭で腫瘍は胞巣を作らずび慢性に浸潤 (び慢型)
(3)分化の程度	diff. は differentiated の略
軽度	slight[英]
高度	severe[英]
未分化型	undifferentiated[英]
低分化型	poorly diff.[英]
中分化型	moderately diff.[英]
高分化型	well diff.[英]
(4)パパニコロー分類	Papanicolaou's examination (or smear, test)[英]Papanicolaouによる細胞診断分類(1963)
Class I	Absence of atypical or abnormal cells 異型、異常細胞はない。
Class II	Atypical cytology but no evidence of malignancy 異型細胞はあるが、悪性の証拠はない。
Class III	Cytology suggestive of, but not conclusive for malignancy 悪性を示唆する細胞を認めるが、決定的ではない。
Class IV	Cytology strongly suggestive of malignancy 悪性を強く示唆する細胞がある。
Class V	Cytology conclusive for malignancy 決定的な悪性細胞がある。

第8章. 腫瘍に関する用語

(1) 概論

悪性	malignancy[英]悪性 (関)mal-[英]不良、悪 悪性症候群、悪性貧血、悪性リンパ腫など、悪性と頭につく病気が結構ある。しかし、がんにすべて悪性をつけているわけではないから、悪性をつく病気の原因がすべてがんとはいくわけではない。その病気の原因が悪性ということによって名前をつけたケースが多く、病気の歴史を語っていることもある ²⁹⁾ 。
悪性化	malignant transformation[英]
悪性腫瘍	malignant tumor(マリグナント チューモア)[英]
アデノカルチノーマ	adenocarcinoma[英]腺癌
アメロ	ameloblastoma[英]エナメル上皮腫
一次癌	primary cancer[英]原発癌
一塊切除	en bloc resection[独+英]癌組織にメスを入れない、触れないことを原則とするから、もし口腔癌でも舌、口唇、下顎歯肉癌などにおいて、所属リンパ節と原発腫瘍との連続性の疑われる場合、両者も一塊として切除する一塊切除が行われる。
エイジング	aging[英]加齢 癌の発生は年齢が進むにつれて増加する。日本の癌罹患のデータに基づいて推計すると、100歳まで生きた場合、男性の4分の3、女性の約半数が癌に罹患することになる ³⁵⁾ 。
エン ブロック	en bloc[独]一塊 (として)
オドントーマ	odontoma[英]歯牙腫
オステオサルコーマ	osteosarcoma[英]骨肉腫
外方増殖性	exophytic[英]
活性酸素	active oxygen[英]呼吸により体内に取り入れられた酸素は、体中に運ばれエネルギーを生み出すが、その過程で活性酸素をつくる。これは電子が不安定な状態の酸素分子でフリーラジカルとよばれる。活性酸素は他の分子と化学結合しやすく、体内の不飽和脂肪酸と結合して過酸化脂質(lipid peroxide)をつくる。過酸化脂質はラジカルになりやすく、この物質が老化をはじめ、発がん、腎障害、動脈硬化、白内障などの異常を促進することがわかってきた。
カヘキシー	cachexia[英]悪液質 cancerous cachexia[英]癌性悪液質 全身の衰弱とるい瘦(emaciation)が著明な悪化状態。
カポジ肉腫	Kaposi's sarcoma[英]
カルチ(Ca.)	carcinoma[英]癌 Krebs[独]癌 平仮名の“がん”は白血病をも含めてすべての悪性腫瘍を意味し、漢字の癌は上皮性悪性腫瘍を表す(日本癌治療学会用語委員会)。腫瘍は細胞の遺伝子の病気と理解され、正常細胞に環境因子が作用して発癌することがわかってきた。癌細胞は分裂をくり返して増殖し、塊をつくり固形腫瘍(solid tumor)となり、また、白血病のように液性(fluid tumor)の形を呈する。 ◇ “Kampf dem Krebs. Krebs ist heilbar.”「癌は治る。癌と闘え。」これは Wilhelm Konrad Ro"ntgen(1845-1923)の言葉 ²¹⁾ 。
カルチノーマインサイチュー	carcinoma in situ (CIS)[英]上皮内癌 (関)in situ(インサイチュー)[英]臓器や組織を生体から取り出さずにそれらの機能などを調べること。
がんもどき理論	近藤誠医師(慶応大学医学部放射線科講師)の著書である「患者よ、がんと闘うな」は、1996年に発売され45万部のベストセラーになり、癌の診断や治療をめぐる論争をまき起こした。近藤医師は、癌には転移する「本物のがん」と転移しない「がんもどき」があるという近藤仮説(がんもどき理論)を提唱している。
口腔癌	cancer of the oral cavity, oral cancer[英]悪性腫瘍全体から見ると、口腔および咽頭部に発生したものは、ほぼその1-2%と推定される。頭頸部癌のうち口腔癌は30%を占める。

頸部郭清術	radical neck dissection (RND)[英]根治的頸部郭清術 【Barbosa(1974)らの提案に準じた分類】 1)部分頸部郭清 partial dissections ①リンパ節摘除 lymphadenectomy(例外的にのみ実施する) ②小郭清 minor dissection(フランスで多く行われ、原発巣に近いリンパ節の一塊切除で、喉頭癌などによく行われる) ③舌骨上頸部郭清 suprahyoid dissection(いわゆる部分郭清の典型である) ④舌骨下頸部郭清 infrahyoid dissection(舌骨上頸部郭清の実施済み症例において、その下方に頸部転移を起こした場合にとられる方法である) 2)全頸部郭清 total dissections (略)トータルネック ①片側性全頸部郭清 unilateral total dissection ②両側性全頸部郭清 bilateral total dissection
機能的頸部郭清術	functional or conservative neck dissection[英]保存的頸部郭清術とも呼ばれる。胸鎖乳突筋、副神経および内頸静脈を保存する方法。
治療的頸部郭清術	therapeutic RND[英]臨床的に頸部リンパ節へ転移をきたしていると思われる症例に対して施行される頸部郭清術。
予防的頸部郭清術	prophylactic RND[英]明らかなリンパ節転移は認められないが、癌細胞の潜在性転移(microscopic metastasis)の可能性を考慮して行う頸部郭清術。
骨肉腫	osteosarcoma[英]
サルコーマ	sarcoma[英]肉腫
進行癌	advanced cancer[英]
スキルス胃癌	scirrhous gastric cancer[英]びまん浸潤性胃癌 胃粘膜表面に現れず、内部で漿膜以下にまで進行する癌。このタイプの中でも胃体部領域のもの(狭義のスキルス胃癌)は特に早期発見が困難で、手術時のリンパ節転移率は90%以上、再発率も70%を超える。 ◇ 人気司会者の逸見政孝(いつみ まさたか)さんは、スキルス胃癌と診断された。三回目の手術は東京女子医大で行われ、約3kgの臓器を摘出するという13時間におよぶ大手術を受けた。しかし、最初の胃癌発見から1年足らずで亡くなった。逸見さんが受けた治療をめぐって各界で論争が起きた。
セーフティー マージン	safety margin[英]安全域、安全幅 悪性腫瘍の手術に際し、病巣を確実に en bloc で切除することが最重要課題であり、部位、組織型、組織学的悪性度などにもよるが、可及的に1.5-2.0cmの安全域を確保して切除することが最優先される。サージカルマージンの項参照。
舌癌	cancer of the tongue[英]舌癌は口腔癌の半数以上を占める。
前癌性病変	precancerous lesion[英]
潜在癌	latent cancer[英]潜伏癌、不顕性癌 臨床的に何ら気づかれずに、剖検時あるいは剖検材料の組織学的検索によりはじめて発見される癌をいう。転移もないのが普通である。高齢者の前立腺や甲状腺に認められる微小癌(minute cancer)がこれにあたる。前立腺や甲状腺における潜伏癌の存在率は10%以上にものぼり、しかも年齢とともに上昇する。
腺様嚢胞癌	adenoid cystic carcinoma[英]
唾液腺腫瘍	tumor of the salivary gland[英]
多形性腺腫	pleomorphic adenoma(プレオモルフィック アデノーマ)[英]
多重癌	multiple primary cancer[英]多重癌とは、2個以上の異なる臓器に同時性、または異所性に原発性癌が発生した場合の呼称である。癌のできた順番に1次癌、2次癌、3次癌という場合もある。同一臓器にできる場合を多発癌、異なった臓器にできる場合を重複癌とよぶことが多い。また、最初の癌が発見されてから2つ目の癌が発見されるまでの期間によって1年(米国SEER*の定義では2カ月)以内に発見されたものを同時癌(synchronous cancer)、それ以上経って発見されたものを異時癌という。

*SEER: Surveillance Epidemiology and End Results

◇ 頭頸部癌症例は、第2癌を併発する率が少なくない。その経過中に症例の15-20%が多重癌を診断されている。第2癌の特徴は、その70%以上が食道、頭頸部、肺の範囲に発症することである。口腔・咽頭癌(消化器系)の症例は、1年以内に8-9%の症例において食道癌が診断されている⁴¹⁾。

多段階発癌

multiple-step (or multi-stage, multistep)

carcinogenesis[英]癌は、臨床的にも、病理学的にも、前癌病変から転移・浸潤能をもつ癌細胞へ多段階的に進行することが知られている。そして、それぞれの段階は細胞内に順次蓄積していく遺伝子異常に対応していると考えられている。このように遺伝子変化が蓄積して、段階的に腫瘍が発生・進展していくという考え方を多段階発癌説とよぶ³⁶⁾。

◇ 発がん物質の投与から腫瘍の発生まではいくつかの段階に分けることができる。まず最初はイニシエーション(initiation)と呼ばれる状態で、発がん物質の投与によって直接的に引き起こされる。イニシエーションは通常短期間に、不可逆的に、細胞のDNAに永続的な変化を与える。次のステップはプロモーション(promotion)と呼ばれ、イニシエーションを受けた組織や細胞がさらに刺激を受けて腫瘍が形成される過程である。プロモーションは通常可逆的で、このプロモーションが起こっている期間は、最初のがん細胞が出現するまでの長い潜伏期にあたる期間である。第3の段階はプログレッション(progression)と呼ばれ、がん細胞がだんだんとより悪性度の高い細胞へと変化していく過程である。

◇ 癌は年齢と深い関係がある。細胞の遺伝子が最初の損傷を受ける発癌イニシエーションの年齢を推定してみると、多くの癌で20歳から30歳代前半で起こっていると推定される。

ディスプラシー

dysplasia[英]異形成 Displasie[独]異形成

dys-[英]異常、困難

頭頸部腫瘍

head and neck tumor, head and neck cancer[英]

頭頸部癌の臨床的な特徴として局在癌(stage I, II)の場合は手術、放射線治療などの局所治療により5年生存率は約50-90%を得ている。これがstage III, IVの進行癌となると5年生存率は0-50%に低下する。すなわち、進行癌においては局所治療の進歩にもかかわらず大部分の症例では原病がコントロールされていない。このうち約2/3は局所再発であり、これは今後の局所治療の進歩により生存率の改善が期待される。しかしながら残りの約1/3は遠隔転移である。加えて、臨床的に確認されるよりもはるかに高頻度に剖検において微小転移巣(micrometastasis)が発見される。

トゥモール

tumor(チューモア)[英]腫瘍、腫瘍 Tumor(トゥモール)[独]

二次癌

secondary cancer[英]第二の別な癌

二次癌の原因は、元の癌同様の遺伝的要因や環境要因などのほか、抗癌剤や放射線などによる一次癌(primary cancer)に対する治療の影響など、多くの因子が絡み合っており、複雑である。そのでき方も、同一の原因による癌が時期をずらして複数できる場合や複数の癌がそれぞれ別個の原因によってできる場合など様々である⁴⁴⁾。

ネオプラズム
“発癌の場”説

neoplasm[英]異常新生物、(悪性)腫瘍

field cancerization[英]1953年にDanely P. Slaughterによって発表された説⁵⁵⁾。例えば、口腔、鼻咽頭などの頭頸部癌の場合、原発癌を切除した周辺組織や隣接した臓器に、新たに別の癌が生じることがよくみられる。これは、原発癌の周辺組織には、すでにいろいろな多段階発癌過程にある癌の芽が存在することを意味している。

パピローマ

papilloma[英]乳頭腫

ファイブローマ

fibroma[英]線維腫

ヘマンジオーマ

hemangioma[英]血管腫

放射線誘発癌

second cancer after radiation therapy[英]放射線被曝に起因

	<p>したと考えられる悪性腫瘍は、一般に放射線誘発癌または放射線関連癌と呼ばれる。放射線治療がその誘因となったと考えられる癌で、基礎疾患が良性病変のときは放射線誘発癌と呼ばれるが、基礎疾患が悪性腫瘍の場合は二次癌として一括されることが多い。放射線照射に起因する二次癌のリスクは、5年生存例を母数とした場合、約0.3%と推定されている⁴⁴⁾。</p> <p>(関)radiation carcinogenesis[英]放射線発癌</p>
マイクロメタスタシス	micrometastasis[英]微小転移
マス リージョン	mass lesion[英]かたまりの病巣、大きな病巣という意味。
マリリン	malignant lymphoma[英]悪性リンパ腫 (略)ML
メタ	metastasis[英]遠隔転移 (略)meta.
メラノーマ	malignant melanoma[英]悪性黒色腫
山極 勝三郎	Yamagiwa Katsusaburo(1863-1930)[和]長野県上田市出身。東京帝大医学部卒業後、ドイツに留学し、ウィルヒョウに師事した。帰国後、32才で東京帝大病理学教授になった。1915年8月、市川厚一とともに、タールを用いてウサギの耳に発癌させることに成功した。これが世界で最初の人工発癌である。「癌出来つ意気昂然と二歩三歩」はその時の句であり、癌研究者の間では有名な句となっている。
ラッシュユ	rush[英]殺到 腫瘍の増殖速度が著しく速い状態のことを“ラッシュユにきている”と表現する。
リカーランス	recurrence[英]再発 (略)rec. Schub(シュープ)[独]再発
局所再発	local recurrence[英]
転移性再発	metastatic recurrence[英]
リポーマ	lipoma[英]脂肪腫
良性腫瘍	benign tumor[英]
O K K	Oberkieferkrebs[独]上顎癌 maxillary cancer[英]
-oma	腫瘍、腫瘍
onco-	腫瘍の意を表す接頭語 (例)oncogene[英]癌遺伝子
S C C	squamous cell carcinoma[英]扁平上皮癌 口腔粘膜に原発する悪性腫瘍は病理組織学的には扁平上皮癌が80%以上を占める。
seed and soil theory	植物の種(seed)はあちこちにまかれても相性のよい土壌(soil)=臓器でのみ芽が出て成長(転移)することができる。癌の転移する臓器に特異性があることは、種と土壌が合わないと芽が出ないように、癌細胞と臓器との間に何らかの相互作用があると考えられる。このメカニズムとしては、癌細胞と臓器が互いに相性良くくっつきあう(接着分子 adhesion molecule)という特性と、癌細胞を増やす因子(増殖因子 growth factor)がすでに臓器に存在するという可能性が考えられている。
T D T	tumor-doubling time[英]腫瘍2倍時間
T N M分類	tumor, nodes and metastasis classification[英]癌の国際臨床病期分類
(2)治療効果	頭頸部がん治療効果判定基準(日本頭頸部腫瘍学会) ¹⁴⁾
C R	complete response[英]著効 すべての病変が消失し、新病変の出現がない状態が4週間以上持続したもの。
P R	partial response[英]有効 二方向測定可能病変の縮小率が50%以上、一方向測定可能病変の縮小率が30%以上または評価可能病変の改善が50%以上であり、かつ新病変の出現しない状態が4週間以上持続したもの。
N C	no change[英]不変 二方向測定可能病変の縮小率が50%未満、一方向測定可能病変の縮小率が30%未満または評価可能病変の改善が50%未満で、それぞれの病変が25%未満の増大または増悪にとどまり、かつ新病変が出現しない状態が4週間以上持続したもの。
P D	progressive disease[英]進行

測定可能病変が25%以上の増大または評価可能病変の25%以上の増悪、新病変の出現がある場合。